

坂本公成 + 森裕子

Kosei SAKAMOTO + Yuko MORI
(Monochrome Circus)

京都を拠点に活動続けるダンスカンパニー Monochrome Circusを率いる二人。「身体をめぐる/身体との対話」をテーマに国内外で活動を展開。代表作にgrafとのコラボレーション『TROPE』や、『HAIGAFURU ~ Ash is falling』などがある。また『掌編ダンス集』と銘打つ大小様々の作品群をレパートリーとしている。その他、コミュニティダンス、サイトスペシフィックな作品など、幅広く手がける。コンタクト・インプロヴィゼーションや身体に関するワークショップを、ダンサーはもちろん、大人から子ども、教育や福祉に関わる幅広い人々を対象に数多く行っている。

所属カンパニー Monochrome Circus

ホームページ <http://www.monochromecircus.com/>

連絡先(担当) 森裕子

住所 〒603-8312 京都市北区紫野中柏野町22番20 紫野スタジオ内
一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメント

在 住 地 京都市上京区

出 身 地 福岡県八女市(坂本) 滋賀県愛知郡(森)



Photo: 妻川裕子

活動歴・受賞歴

○活動歴

〈2008~09年〉『坂本公成掌編ダンス集 国内ツアー』@アトリエ劇研(京都)、@本行寺(岡山)、@別府市中央公民館、@茅野市民館(長野)

〈2008~10年〉『Monster Project』@アトリエ劇研(京都)、@CND(Angeles)、@パリ日本文化会館(Paris)

〈2010年〉『オーケストラで踊ろう!!』@可見市文化創造センター、@大垣市民会館

〈2011~16年〉『TROPE』@VOICE GALLERY(京都)、@可見市文化創造センター、@P3artandenvironment(東京)

〈2015~21年〉『HAIGAFURU/Ash is falling』@京都芸術センター、@横浜赤レンガ倉庫

〈2017年〉『T/IT:不寛容について』@京都芸術センター

〈2019年〉『FLOOD』@京都芸術センター

〈2022年〉『京都自粛生活日記Don't worry!!!』、

『TSUBUTE』@THEATRE E9 KYOTO

○受賞歴

〈1998年〉芸術祭典・京 造形部門“公募・京を創る”入選
〈2000年〉“京都市若手芸術家奨励制度”奨励者に選出される(助成金300万円)

〈2001年〉横浜ダンスコレクション Solo* Duoコンペティション ファイナリスト

静岡振付コンクールファイナリスト

〈2002年〉アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)の助成を受けてNY研修

〈2008年〉京都市芸術新人賞受賞

ワークショップ歴

〈2000~22年〉京都国際ダンスワークショップフェスティバルにてコンタクト・インプロヴィゼーション、キッズ&アダルト、ピグナー・クラスなどを指導 主催: Dance &

Environment+京都芸術センター

〈2006年〉「トヨタ・子どもとアーティストの出会いin愛知」@瀬戸市立掛川小学校 全校生徒(19名)とパフォーマンスを創作 主催: 子どもとアーティストの出会い

〈2007~15年〉Contact Improvisation Meeting in Japan(CIM)にてコンタクトのベーシック・クラス、創作クラスを担当 主催: Dance & Environment

〈2009年〉『混浴温泉世界-ダンサーを探せ!!』地元の人と商店街でダンスを展開。主催: 別府プロジェクト

『オーケストラで踊ろう!!』可見市・大垣市の6歳から80歳までの市民150名がオーケストラの生演奏で踊るという企画の演出・振付 主催: 可見・大垣オーケストラで踊ろう事業実行委員会

〈2023年〉芸術文化観光専門職大学にコンタクト・インプロのWS。

その他、大学、役者向けのWS、子供向けのWSなど多数経験有り。

可能なワークショップ等のスタイル

アウトリーチ・公募ワークショップ共通

①ふれあうことから

他者と触れ合う中で生まれる動きを通じて、身体のセンセーション、相互の身体をリスペクトすること、いかにコミュニケーションをとっていかかということに焦点をあてています。

②子どもとおとなワークショップ

コンタクト・インプロヴィゼーションを生かしながら、子どもとおとなの身体の違いを相互にリスペクトしながら、ともに身体を動かしダンスを経験する楽しいワークショップです。

◎実施条件(共通)

▶参加人数: ①30名以内、②20名以内 ▶1日の実施可能回数・時間: 2コマ程度 ※1コマ120分
▶必要機材: 音響設備(CDプレーヤー、スピーカー)
▶対象: どなたでも

この事業で可能な公演スタイル

レパートリー作品

①『きざはし』(デュオ)

150本のナイフ、テーブルの上と下の男女。意図しように意図しないうかがい人が2名存在するだけで互いに傷つけ合っている。▶上演時間: 25分 ▶出演者数: 2名(登録アーティスト)

②『lost』(ソロ)

LED照明を使ったインスタレーションの作品。7m×7mのオープンスペースならばどこでも上演できるようになっている。▶上演時間: 25分 ▶出演者数: 1名(登録アーティスト(森)) ▶同行スタッフ: 照明1名 ※照明機材持ち込み。

③『Endless』(デュオ)

3.11以降の価値観の変動とゆらぎを、ダンスを通じて見つめなおす坂本+森デュエット作品。▶上演時間: 20分 ▶出演者数: 2名(登録アーティスト) ▶音楽: 山中透(元dumb Type)

④『TSUBUTE』(デュオ)

詩人の和合亮一氏の『詩の礫』を題材にした二人の渾身の最新作品。▶上演時間: 25分 ▶出演者数: 2名(登録アーティスト)

⑤『京都自粛生活日記 Don't Worry!!!』(デュオ)

2020年春の緊急事態宣言に伴って要請された外出自粛生活の2ヶ月あまりを、身体と日記調の語りで綴ったドキュメンタリーダンス作品。

▶上演時間: 28分 ▶出演者数: 2名(登録アーティスト)

市民参加作品

①『夏の庭』(デュオ)

雷の音、ヒグラシの鳴き声。夏という季節はなぜかはかなく、切なく感じられる。▶上演時間: 18分

▶出演者数: 2名(登録アーティスト)+10~15名

②『それから六千五百年地球は眠っているだろう』

三好達治のテキストを元に、震災の記憶と核の問題を扱った市民参加型作品。▶上演時間: 35分 ▶出演者: 2名(登録アーティスト(森)+共演者)+8名(ワークショップ参加者)

◎実施条件(共通)

プロジェクト展開地域の実情を考慮し組み合わせで展開したい。▶上演環境: (1)会場の広さ・形状: 7m×7m以上希望 (2)床: リノリウムがあった方が望ましいが、なくても対応可 (3)必要機材、舞台セット: 通常の照明・音響機材